

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
 発行者：野川台自治会長
 川崎市宮前区
 TEL.
 協力：西野川小学校PTA、野川中学校PTA
 一葉会、おやじの会、すずの会ほか
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



こどもたちの声を発端に始まったあいさつ運動、その思いに応えて「あいさつの輪」、
 さりげない「お節介の輪」の拡がりを通じて支え合うコミュニティを皆の手で！

“おはよう”は人を幸せにする魔法の言葉

西野川小学校 校長 高橋 順一

田舎に帰ったときのことで。中学生が突然「こんにちは」と声をかけてきました。ドキリとしました。

しかし、よく考えてみると私たちも小学生や中学生の頃同じようにあいさつをしていました。あいさつや返事は呼吸するのと同じくらい自然なことでした。

都会に出てくると、人が多すぎてあいさつどころではありません。アパートの隣の住民さえどんな人が住んでいるのか分からないくらいです。そんな環境にいるとあいさつは自然なことでは無くなってしまいます。

匿名社会の都会の功罪！

都会で住むには、「匿名性」が都合のよい場合があります。近隣に余計な気を遣う田舎と違う気安さです。代わりに自分に縁のある範囲のあいさつさえしておけば良いのです。会社の仕事仲間、取引の業者などです。

教師になって、改めて都会の子どもがあいさつをしないことに驚かされました。保護者も都会の「匿名性」の中で育ってきたので、あいさつということの習慣が子どもの時分から育てられなかったのではと感じました。でも、祖母が子どもを連れて学校に来られた時には丁寧にあいさつをされた後、孫に向かって「ほら、先生にごあいさつしなさい」とそれを聴いてほっとするのでした。

あいさつのあふれる西野川小学校をめざして！

私の子どもへの指導は、「あいさつ・返事」を徹底することから始まります。「あいさつは、人と人をつなぐ魔法の言葉です。犬や猿もあいさつ行動をします。「おはよう、今日もお互いにがんばろうね」のエールの交換でもあるのです」また、「授業中の返事には二つの意味があり



ます。名前を呼ばれたら、①あなたからのメッセージを受け取りましたよ、②よしやるぞという意気込みのハイ、です」ということを話しています。

また、「東京ディズニーランドのディズニーミッションは、すべてのゲストをハピネス（幸せ）にすることです。「笑顔・あいさつ・アイコンタクト」が最高のおもてなしなのです。」と語ります。

人を幸せにする魔法の言葉「おはよう、こんにちは」が西野川小学校ではたくさんあふれています。あいさつはする方もされる方も幸せになります。

今とても幸せです。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

さりげない“お節介の輪”の拡がりをも！

地域でのあいさつ運動の原点は、私たちも参加させて頂いています小・中学校の校門での朝のあいさつ運動にあると思っています。そしていつも校長先生方がおっしゃっていますように「近所の方とあいさつを交わせるようになったら本物のあいさつになる」と受け止めています。そんな風になるには、地域の人もあいさつの持つ魔性を上手に生かし、子ども達と積極的にあいさつを交わすようお願いしたいです。そうなれば、お互いに顔見知りになり、そのうち「おはよう、元気！」と励ましたり、ほめたり冗談を言ったり、時には「それはあぶないよ！」「手伝おうか！」とか一歩踏み込んだ言葉も自然に掛けられる間柄になっていきます。

そんなさりげないお節介の言葉が自然に出るようあいさつの輪の拡がりをも皆で進め、コミュニティ形成に繋げていきたいものです。

(野川台自治会長 津山知充)



生徒全員が輪番であいさつ運動に参加!

野川中学校校長 北谷 辰雄

私の知る限りでは、野川中学校のあいさつ運動は今から12年前には行われていたと思います。継続して行われてきたあいさつ運動ですが、本校のあいさつ運動は他校と少し違っています。生徒と先生が校門に立ち登校してくる生徒に挨拶するところまでは同じ形ですが、多くは生活委員会など決まったメンバーが行っているのに対して本校は生活委員以外に生徒全員が輪番で参加しています。一部の生徒だけではなく皆で取り組み、あいさつ運動をつくり上げることによって「あいさつの大切さを感じ取り、習慣としていく」ことを目指しています。社会に出た時、「テストの点数よりも、あいさつができることの方が先に重要」になると思うからです。赴任して間もないころ、登下校で生徒に会い、声をかけると元気よくあいさつをしてくれました。でもその後に「今の人だれ?」という声が聞こえてきました。知らない人でもきちんとあいさつのできる生徒だと思いました。

“お父さん”から“地域のおやじ”を目指して

あー! ロケットが飛んだ…すごい、最高! 満面に笑みを浮かべながら今にも校庭の真ん中の落下地点に走り出そうとする子ども、「駄目、駄目! 飛行区域に入ったら、次のロケットに当たって怪我するぞ!」と制止するおやじの会“ロケットおじさん”の大声…。その日、ペットボトルのロケット製作場所の西野川小体育館には、朝早くからおやじの会のメンバー13名のもとでお父さんと子ども等併わせて約40組(120名)が、汗を流しながら親子で取り組んでいました。

3年生のお父さんは、「口頃子どもと遊ぶ機会が少なく一緒に作れて良かった、父親の存在を示せたかな!」と満足そう。子どもの方もいつものお父さんと違うと肌で感じながら嬉しそうに頑張っていました。

平成9年に発足したおやじの会は、いつも子どもたちと一緒に、汗をかき、ワイワイいいながら楽しむことにあるとのこと。その言葉の裏には、地域のおやじとして、背中を見せながら、時には注意したりして、家庭と学校と地域の繋がりを大切にしながら地域全体の子育てを口指していることが伺えました。

(おやじの会の会長は、斎藤英純)



うまくできるかな!



野川中学校の朝のあいさつ運動

あいさつは、心からして元気良く!

西野川小学校6年 嵯峨 雅己

朝のあいさつ運動で大きな声で「おはようございます。」と言います。そうすると、なぜか自分がうれしくなっていて、“今日も一日元気にがんばろう”という気持ちになります。たとえ朝でなくても、あいさつされるとうれしいです。

「あいさつをする事」はすごく大切な事だと思うので、良いあいさつをもっと広げるためにも朝でなく放課後もあいさつをしたり、一人ひとりが気持ちの良いあいさつをして、良いあいさつが広がって毎日元気に過ごせればいいなと思います。

一日の始まる合い言葉

野川中学校2学年 生活委員 柴原 梨那

「おはよう」の一言で一日が始まります。みなさんは、あいさつしていますか? 普段話すことがない人とも仲の良い人とも、その一言だけで話す“きっかけ”が出来るのではないのでしょうか。一人ひとりが声を掛ける心がけをすることで朝を気持ちよく迎えられると私は思います。

野川中で行われている「あいさつ運動」は、月曜日にサミットメンバーを中心に、火曜から金曜日は生活委員の週番長を中心に各クラス、1・2番から順に週番活動をしています。今後は野川中の一員であることを自覚し、参加者が増えてほしいです。皆さんの参加を待っています。

野川台自治会と学校の主な取り組み

- 1 朝の校門でのあいさつ運動
- 2 バトルロールを通じたあいさつ兼防犯活動
- 3 橋誌シール「あいさつのあふれるすてきな街づくり」
- 4 広報紙「あいさつ運動の輪」発行

主な担い手

学校(地域)
地域
学校・地域
地域・学校



あいさつのあふれるすてきな街づくり

— 現代版「向う三軒両隣」の間柄 —



自然に挨拶を

野川小学校校長 志村 辰也

野川小学校で「あいさつ運動」が行われるようになった経緯やその意味について本誌第 5 号で書かせて頂きました。今回は現状について紹介したいと思います。

野川小学校では毎朝 8 時に校門が開き、「あいさつ運動」が始まります。校長、用務員からスタートして、8 時 10 分から野川ふれあい委員会の子ども達、担当クラスの子ども達とその担任が参加します。そして、その学年の保護者の方も参加します。曜日によっては町会の皆さんや民生委員さんが参加します。多い時には 40 名近くの方が、登校してくる子ども達に「おはようございます」と声をかけます。負けずに声を返してくれる子もいますが、圧倒される子もいるようです。

本来は、大声を張り上げるのではなく、お互いが気持ちよく、自然に普通の声で「おはようございます」と言えるような学校になればよいと思っています。自然に挨拶が交わせる学校を目指しています。



野川小学校の朝のあいさつ運動

子ども見守りたい

昨年度後半より、地域のみなさまのご協力で子ども見守りたい（子どもの登下校時にあいさつ、声かけなどをおこなう）を展開しております。この運動の目的は、地域全体で取り組むことにより、地域の連携・交流を深めるとともに、防犯などの効果も期待されております。

（野川中学校区地域教育会議議長 神津博行）

東日本大震災の教訓“絆”の再認識

3 月 11 日発生した未曾有の東日本大震災。地域の人の「絆」の強さが、色々な形で報道されています。

私達も、日頃からお互いに助け合い、支え合うことが災害時のみならず、その後の生活の中でもどれほど大切か改めて認識させられました。

阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、全国的に地域での支え合いの場づくりが行われ、中越地震の被災地の新潟県では、「地域のお茶の間」づくりが集会所等で進められています。私たちの住む野川では、地域福祉の先進的取り組みとして、孤立しがちなお年寄りや子育て中の母親等が近所単位で気軽に寄りあえる「ダイヤモンドクラブ」が 10 近く誕生しています。そうした身近なつながりは、いざという時に一番頼りになります。その意味でもさらなる開設を願うとともに、住民同士が日頃からあいさつを交わし顔見知りの間柄になる「向う三軒両隣」の関係づくりが再認識されています。それは究極の防災活動とも言えます。（事務局）



南野川小学校の朝のあいさつ運動

あいさつが広がる街に

南野川小学校校長 秋本 和子

正面・南門・南門を下った「野川住宅前」信号の所と日によって立つ場所は異なりますが、前任の高橋邦雄校長先生に習って、登校してくる子どもたちと元気に「おはようございます」とあいさつを交わすことから私の学校での一日が始まります。「おはよう」のたった一言で、心が温かくもさわやかにもなる、まさに、あいさつは「心のビタミン剤」のようです。保護者、町会役員、民生委員の皆様方にも朝のあいさつ運動にはご協力いただき、感謝しております。お陰さまで、子どもたちからは、朝のあいさつだけでなく、校舎内で出会った時「こんにちは」というあいさつも聞かれるようにもなりました。みんなが気持ちよくあいさつが交わせる、そんな明るい家、学校、街でありたいと思います。そのために、「おはよう」のあいさつから、「こんにちは」「こんばんは」など、色々なあいさつが、いつでも、どこでも、誰にでも自然にできる子どもを育てていきたいと思っています。

お菓子サロン

La Fontaine
ラ・フォンテーヌ

10:00AM~6:00PM 宮前区野川3017
月曜・火曜・定休 044-755-7828



パースデーケーキや
キャラクターケーキなど
もお受けいたします。

学校と地域のつながり

学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

地域の子どもも大人も参加した納涼祭！

8月6日、今年も寿楽園納涼祭が行われました。

地域の中の福祉施設として、第5回目を迎え、施設の利用者・家族はもとより、地域の人とのふれあいの場としても定着。年々参加者も増え、今年は合わせて600名を越え、西野川小、野川小、野川中からお借りしたテント・机・イスも足りなくなるほど…。

中学生ボラや自治会の人、浴衣姿の職員が売り子の模擬店では、開会前から活気溢れ、施設手製の焼きそば、しゅうまいのほか、綿菓子、かき氷、飲み物等が飛ぶように売れ、祭りを盛り上げていました。

一方、メインの舞台では、地域の方による野川親子太鼓、フラダンス、踊り、そして施設の新人を中心とした若さ溢れる“よさこいソーラン”等が披露され、この日を楽しみにしていた利用者・家族や近隣の人を満喫させ、みんな思い思いに絆を深めながら元気をもたらした1日でした。(寿楽園の担当、小川、松尾各職員)



思い思いの楽しいひととき

念願の県中学総合体育大会で健闘！

「礼に始まり、礼に終わる」スポーツ、剣道！

剣道部は、市の剣道大会の男子団体決定リーグ戦を2勝1敗で突破、念願の県総合体育大会剣道大会に進出。返子開成に2勝3敗で惜敗したものの、その健闘ぶりは、剣士の表情から明日に期するものがありました。部員は、そのほとんどが中学校に入学してから剣道を始めたこともあって、周りの人すべてを師とし、お互いに切磋琢磨してきました。

朝6時からの冬休みの寒稽古、夏休みの猛暑の中の厳しい練習を通じて、凛々しい剣道の立ち姿(他のスポーツのフォーム)を体得し、技に繋げています。厳しい練習を乗り越えた時、初めて剣道の面白さや好きな気持ちを感じていくとのこと。

(顧問は、岸、杉本、大塚の各先生)



基本の繰り返し

相撲、全国大会に進む快挙！

野川中学校の柔道部は、特色のある練習で知られています。柔道のかかり稽古、受身、乱取りの練習に併せて一人でできる相撲の四股やすり足の稽古もしています。それは足腰と瞬発力を鍛え、各大会の健闘に繋がっています。今季の柔道は、市柔道大会の90キロ級で優勝するなど団体戦、個人戦とも上位に食い込んでいます。一方、テープを床に貼って土俵をつくり稽古している相撲は、県大会の団体戦で5位に止まったものの、個人戦では、春の大会で敗れた横浜南中を「押し出し」で雪辱し優勝、そして関東大会、全国大会と駒を進めています。チームワークを大切に、基本とひとつの技を徹底的に練習し試合に臨んだ結果といえます。



気迫！

(顧問は、五十嵐、菊池の各先生)

県吹奏楽コンクール金賞、東関東大会へ！

“29番、川崎市立野川中学校ゴールド・金賞！”

これは、8月9日よこすか芸術劇場で行われた県中学校吹奏楽コンクールの審査発表のアナウンス。



息のあったパート練習

先月市吹奏楽コンクールで、初めて念願の金賞を頂き抱き合って喜び合ったばかりなのに、思いもよらない県金賞、その上東関東大会に出場できるなんて！確かに本番の演奏は一番よかったと感じていたものの、一瞬、誰しもが信じられなく、そのあとは涙・涙。

夏休みに入って毎朝7時から教室やトイレの掃除を日課に、筋トレ、プレストレ、パート練習等、午後は音合わせの基礎合奏を誰一人休まず練習を重ねてきました。この努力の源の一つには、音楽が好きで仲間と一緒に練習をしたいという部員の一途な気持ちの表れと言えます。

なお、南野川小学校スクールバンドも東関東大会に出場します。(顧問は白井、大熊、酒井の各先生)

編集後記

東日本大震災で私たちは“絆”の大切さを再認識させられました。絆は、地域福祉の原点ともいえます。こうした点を踏まえながら、あいさつ運動について今回4人の校長先生に執筆して頂き有難う御座います。私たちも一緒にあいさつ運動を一步進めていきたいと思っています。なお今年度も、区社協から福祉の風土づくりの面から支援金を頂きました。

(原、辻本、後藤、鈴木)